

広報

まっだい

1989

1月

第350号

■発行 新潟県松代町役場総務課 電話 松代7 2220番 平成元年1月19日



《人口の動き》 男2,728(-6) 女2,767(-7) 計5,495(-13) 世帯数1,577(-2)
12月末現在 出生1 死亡4 転入6 転出16

新春のご挨拶



町おこしに新たな波を

町長 秋山 利作

成果をみた

公共事業

新春を迎え、謹んで町民の皆様のご多幸とご繁栄をお祈り申し上げます。
「一年の計は元日にあり」と申しますが、三年続きの小春日和の正月を迎え、私、町政をお預かりして二十年目の大きな節目のもと、新たな決意で粉骨砕身努力する所存でございます。

さて、昨年におきましては県当局のご努力により、国道二五三号線儀明地内、松代地内の拡幅改良工事、流雪溝改良工事をはじめ室野地区濁川の改修工事、芋島地区防雪工事、地山治水工事等々数多くの公共事業がございました。また、町においても各町道の舗装改良工事、防雪対策施設

工事、池之畑簡易水道工事、農林道の開設改良工事、後継者（国際結婚）対策事業、町史編纂、チベットの文化研究所の開設など盛り沢山の事業計画がございましたが、町民各位のご理解と、ご協力により全て完了することが出来ましたことに対し厚くお礼を申し上げます。

今年は巳年

今年は巳年、すなわち蛇年です。蛇は、十二支のなかの唯一の爬虫類ですが、古くは恐竜、現代では亀やトカゲ、ワニなどの仲間です。

蛇と聞いただけで、嫌悪感をもよおす人もいるようですが、それは多分にあのグロテスクな姿のせいです。脚部の退化・消失してしまった細長いからだだが、S字型を書くようにくねくねと動く様子は、蛇独特のものです。

あの細長いからだで、内臓はどうなっているのだろう？

…
ご心配には及びません。内臓も体に合わせて細く伸びているほか、腎臓など本来は左右にあるべきものが、前後に位置を占めておさまっているそうです。

国道と鉄道を

町の大動脈に

次に新年度事業であります
が、昨年来、国において承認
された「マイライフ・リゾー
ト新潟」の本格的始動の年で
あり、当町の期待できる事業
といたしましては、交通アク
セスの要所として、関越高速
道と北陸高速道を結ぶ二五三
号線の改良舗装工事の予算割
当の増額と、昨年の整備新幹

線論議の中で、北越北線が首
都圏と北陸地方を結ぶ最短絡
路線としての重要性が見直さ
れ、第三セクターのローカル
路線からスーパード急急化案に
一躍浮上しこれの電化、高速
化に計画変更されることに全
精力をささげたいと思います。

利雪と

農業の合理化に向けて

そして今年は、国土庁の新
モデル事業、雪国快適環境総
合整備事業を導入し、三カ年
計画で室野地区に流雪溝、千
年・松代地区にフアミリス
キー場とクロスカントリース
キーコースなどの建設に着手
し、雪害から利雪、そして親雪
への初年度にいたしたいと思
います。

また長年農家の皆様方より
ご要望のありました農協を主
体として的大型ライスセンタ

ーを農林省の新定住促進対策
事業で着手したいと思いま
すし、昨年国において承認さ
れました、小規模多目的ダム(ミ
ニダム)の始動の年でもあり
ます。

この他、町民皆様の生活路
線である町道の改良舗装、防
雪工事、災害復旧、駅舎建設
計画、農林道の開設舗装など
いろんな事業が計画されてお
ります。

引き続き

温泉を掘削

また町活性化の救世主とし
て、町民の皆様からご要望の
ありました芝峠温泉開発につ
きましては昨年計画通り八百
メートル余を掘削いたしました
が予定していた温度、湯量
に達しませんでした。しかし

掘削会社の説明によると、漸
く温泉のある層、土質にさし
かかったとのことであり、名
古屋市の須崎さんと相談の結
果、本年一千二百メートルま
で増掘することにいたしました。

町おこしに

総意を結集

さらに今、一番求められてい
るものは、ハードな事業面よ
りソフト面のアイデアであ
り企業のセンスの思考力であ
ります。全国一律一億円の財
政援助による村おこし「ふる
さと創生」にみられるように
今ほど地域の独自性、知恵を
問われている時はございませ
ん。このため二十一世紀を目
指した人材の育成確保が大切
かと思えますし、真の「むら
おこし」運動は議会や役場の
職員だけでなく、地域住民の

創意の結集であり、特にこれ
から町づくりの主役となって
いただく若者のエネルギーを
集約したいと思えます。

最後となりましたが、今年
が松代町にとって、そして町
民の皆様方にとって素晴ら
しい年となりますようにお祈
り申し上げるとともに、皆様
の一層のご協力をお願い申し
上げて年頭のご挨拶といたし
ます。

蛇は、古来、恐れられ排斥さ
れる一方で、崇拝と畏敬の対
象でもありました。日本では
神のお使い、あるいは神その
ものと思われていた様子が、
古典や伝説、昔話に多くみら
れます。

例えば、池や沼の主を大蛇
とみて雨ごいをする風習は全
国的にあるといわれます。ま
た、白い蛇を家の神とする信
仰も各地にみられます。

ところで、蛇は集団をつく
らないといわれます。蟻など
のような社会組織や集団生活
の例は、まったく知られてい
ないということです。いつも
“ひとり”で孤独な生活をして
います。そのため、異性と出
会う機会がたいへん困難だと
いうことです。ちよつとさび
しい話ですね。

ところで、蛇は、生きてい
る間ずっと成長し続けます。
発育にともなつて、古い皮は
二カ月に一度定期的に脱ぎ捨
てられ、新しいのを取り換え
られる。脱皮です。お正月
を機に今年こそは新しい試み
をと、脱皮を心がけておられ
る方、うまくいくといいです。

松代町史編集シリーズ③⑦

年末の不安と焦燥

松代町史編集室 関谷哲郎

師走さいごの
追いこみ仕事

割りつけ用紙に時間をかけて、大小の写真を組み合わせたのを受取り、ホッとしました。

とにかく出版会社へ一刻も早く、届けなければならぬのが今、編さん室の仕事です。

写真のことでは
こんなことも

松代町史では、気候、気象を万羽卓司先生、久保田吉則先生と共に担当してもらいましたが、カラーグラビア用の写真を持参してきました。

早速、編さん室で「さて、四ページに、どうやってはめこもうかな」というんで、わくどりをはじめました。

編さん室の万羽伸子さんと見せてもらうと、いやー実にキレイ！

冬の景色、ブナ林、高所から見た雲海、紅葉、どれをとっても松代にこんな立派な自然の景観があったかと思うものばかりです。

きめた場所の木の葉が邪魔で写真をとってなかったということでした。

この写真を入手したのが二月二〇日。

最後の最後の原稿

TVドラマでもよく小説家やさし絵画家が期日を守らない場面がありますが、町史の執筆者も同じです。なかなか、堂々として遅らせている先生もおいでです。

一編一章の原稿は依然としていただけに。印刷会社納入の期日はギリギリとなり、ついに、集まった原稿をそっくり印刷会社に運びこみました。

二月一日早朝、電話のベルで呼び起こされて、地質系主任の高野先生の声を聞きました。低い悲痛な声でした。

「右眼の内出血がおきましたね。精密検査を受けなければなりません」

責任を感じておられる先生の言葉は湿り勝ちでした。

高野先生は御自分の原稿の殆んどは出来ていたのですが

ある先生の遅い原稿仕上げをかばっておられた節がある。

困った。しかし、病気の高野先生に無理をさせられない。

原稿未納の某先生の所へ直接行くしかない。約束の一六日に何うと「実はまだだ」と

のことで、心の中はくしゃくしゃである。では、いつ迄に書いていただけますか。

一九日までには……では一九日に伺っていいですか。

「ハイ」といわれるので、一九日に原稿をいただけると思っても心配がたえません。

一九日早朝、某先生から自宅へ電話がありました。

「実は……今日、原稿を取りに来ないで欲しい。」

なんということだろう。もう日がない。

あせり、悲嘆、くやしき。

来るなといわれても上越へ行かねばならぬ。上越教育大学の渡辺教授、高野先生へ電話

を入れて訪問の時間を約して直接面談の上で、対策を話し

う以外にないと思い、万羽伸子さんと上越へ向いました。

幸い高野先生は手術の必要なしと診断されたが、右眼を

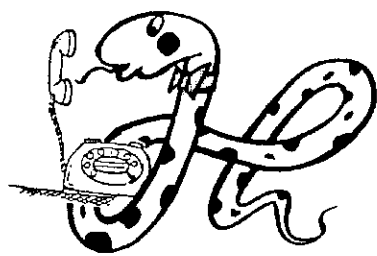
あけられぬ状態であった。上教大の渡辺教授、天野助教授も心配しておられ、監修の菅野先生とも東京と連絡をつけておられました。

「某先生が、いよいよ書けないときは、私とその穴を埋めましょう」と天野助教授が云って下さった時は、嬉しかったが、その言葉を聞いて、もう一度某先生を訪ねる勇気が湧きました。

他の原稿は全部印刷会社へ渡っていること、関係の先生方が本気で心配なさっていることを訴え、冬季休業入りの二六日に仕上げるという約束をとりつけて帰るや、編さん室で年表の総仕上げを始めました。

菅野先生も心配のあまり、電話を下さって二四、二五日上教大へ来られる機会に最終原稿をみたいといわれるが果せない。二七日、ようやく、高野先生宅で某先生の米宅を待ち徹夜で書き終えたという原稿をもって、石口丈夫さんの運転で印刷会社へすべり込んだ次第です。

くらしにやくだつおしらせひろばくらしにやくだつおしらせひろばくらしにやくだつおしらせひろばくらしにやくだつおしらせひろば



119番は 落ちついて 正 確 に

1. 何があったのか.....火事、救急、災害
2. どこで.....部落、屋号、目標物
3. あなたの名前.....名前または屋号

障害年金(旧法)などが

年六回支払いになります

国民年金や厚生年金などの加入者、受給者の皆さんの年金相談や年金支払いなどに迅速、確実に対応するために、

の二月支払い分から実施されます。

東京の社会保険庁と全国の社会保険事務所を電話回線で結んだオンラインによる事務処理化が進められています。その結果、今まで手作業による年金支払いをしていた旧法の障害年金・母子年金・遺児年金・寡婦年金も、昨年十月から社会保険庁での支払事務に切替えられました。

なお、老齢福祉年金は、従前どおり県国民年金課から支払いをし、四月・八月・十二月に支払われることになります。年六回支払いになる年金は：障害年金・母子年金・準母子年金・遺児年金・寡婦年金

(いずれも旧法該当年金) 支払月は.....二月・四月・六月・八月・十月・十二月 (偶数月です)

支払日は.....銀行支払いも郵便局支払いも15日です。

15日が土曜日↓17日支払
15日が日曜日↓16日支払

そして更に、年金の支払い回数も、今までの年四回から六回に増えることになり、こ

第三回上石蔵杯争奪クロスカスキー大会

県内六〇〇人の選手が集合

一月二十九日(日) 午前十時競技開始

町民グラウンドで行われます

参加してみなければこの楽しさはわからない

第2回越後まつだい冬の陣

3月11日(土)・12日(日) 会場：町民グラウンド



雪と寒さを逆手にとって活用しようとの動きは、今や雪国の時流となっています。第二回冬の陣では、新たに雪の芸術展を企画いたしました。町内会、子供会、職場の団体等皆様方の積極的な参加をお願いします。

参加してみようという方(団体)は一月末までに事務局までご連絡いただきたいと思います。

◎事務局 松代町役場総務課 (☎七一二二二〇)

くらしにやくだつおしらせひろばくらしにやくだつおしらせひろばくらしにやくだつおしらせひろばくらしにやくだつおしらせひろば

松代町の鳥

シリーズ (23)

ウグイス

松 永 洸

伊藤博文の歌に
春來ぬとも 知らぬ旅路の
手枕に聞きて

驚く鶯の声

があり、日本三鳴鳥の上座をしめ、「梅に鶯」の掛け軸や絵など昔から親しまれ、「うぐいすもち」とお菓子にまで名前のついているウグイスは、スズメ目ヒタキ科ウグイス亜科に分類され、日本全国に普通に住み、晩秋になると高山や北方に生息するものは温暖な地方に移動します。松代町でも、初冬のころ笹のある藪の中で、チャッチャツと鳴いています。この鳴き声を「笹なき」と呼び俳句の季語にもなっています。

ウグイスは雄と雌とでは大きさがちがいが、雄の全長は約一五五ミリで、雌はそれより少し小さいのです。雄と雌の体格のちがいは、他の鳥にも

見られ、タカの仲間のハイタカにあっては、ウグイスと逆に雌が雄の二倍近くもあります。タカ類は一般に雌が雄より大きいようです。雄と雌の体格のちがいは何を意味するのでしょうか？

体色は、オリーブ色を帯びた褐色で翼、尾は褐色味が強く、淡色の肩斑があり、腹部は汚白色という地味な色をしています。お菓子の「うぐいすもち」は、ウグイスの体色とちがいが、どちらかと言えばメジロの体色に近い色をしています。

さえずりは、といいますとホーホケキョ、ケキョ、ケキョと鳴き、人間が「谷渡り」と名づけた、ケキョ、ケキョ、ケキョ……と鳴くのは雄から雌への警戒の合図であることがわかっています。

さえずりは、ナワバリ（テ

リトリ）を維持するために必要なことで、さえずる場所も、ナワバリ内の他の鳥からよく見えることができ、またさえずりがよくとどく高い木を好んで利用します。さえずりは雄の仕事ですが、雌はというと、巣作り、抱卵、育雛の仕事を受け持っております。巣作りは根雪が消える四月下旬から五月上旬にかけ二週間ほどの間に行なわれ、地上から二〇〜一〇センチ位の高さに入口が横に向いた球形の巣を作り、外部はほとんどササの葉を編み込み、内部はイネ科の植物の細い葉、カヤの細根、落葉、獣毛を使って作ります。中に一日一卵早朝にチヨコレート色の卵を四〜六個産み、一六日間抱卵すると雛が生まれます。雛への給餌は雌だけで行ない、一日一羽当りの給餌回数は孵化後三日目で一回、六日目二〇回、八日目三三回、一三日三〇回となり雛の成長に伴なって増加しますが巣立ちの前日つまり一三日目には逆に減少することが研究の結果わかっています。この間雄はまったく

正しい一一〇番のかけ方

覚えておきたい六項目

通報は落ち着いて、

正確に、はっきりと

一一〇番は、わたしたちの

安全な生活を守るために、欠

かすことができない手段です。

ところが、なかには「こんな

ことで通報してはいけないの

ではないか」とためらったり、

せっかくなかいても慌てている

ため、通話の要領を得なかつ

たりする場合があります。そ

こで、もう一度正しい一一〇

番のかけ方を順を追ってみて

みましょう。

1、何があったか

けんか、交通事故、強盗な

ど

2、いつ、どこで

発生時刻、場所、目標物な

ど

3、犯人の手がかり

人数、人相、着ていたもの、

特徴など

4、逃げた方向

東西南北の方向など

5、何で逃走したか

徒歩、自転車、バイクなど

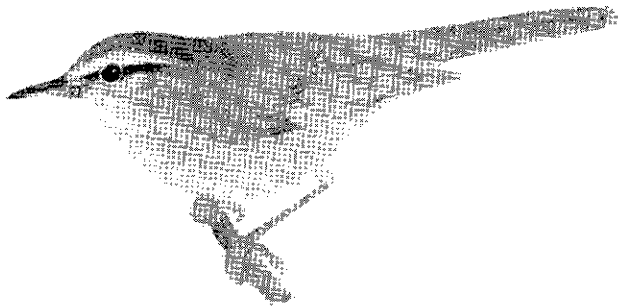
6、通報者の名前、現在地な

ど

通報のときは、これらの内容を係員が尋ねますので、落ち着いて正確に、はっきりと係員に答えてください。



といってよいほど子育てには関与しないようです。ところがウグイスにとつてはやっぱりいなかがあるのです。それはウグイスの巣をねらってホトギスがウグイスの巣に卵を産みつけるのです。卵の色はほぼ同じ色であることからウグイスの雌は知らずに抱卵するのです。するとウグイスの卵より早く孵化することからその巣をホトギスの雛が独占してしまい、ウグイスの雛は孵化せず育たないということがおきるのです。ウグイ



スにとつては、はなはだ迷惑なことと思います。

ウグイスに関して、こんなエピソードがあります。それは村上天皇のころ、清涼殿の梅の木が枯れ、天皇は家来を呼び立派な梅の木をさがして植えかえるように命じたところ西の京に立派な梅の木が見つかり、その梅の木を植えることにした。ところが植えかえる時になってみるとその梅の木に

勅なれば いとまかしこし 鶯の宿はと問はば

如何に答えるという歌がかけてあり、天皇がこの歌をおよみになって不思議に思い、この歌の読み人をさがしたところこの梅の持主は、紀貫之の女、紀の内待であったことがわかり天皇は大いに後悔したという話がある

ります。(にいがたの野鳥、風間辰夫著) また応仁の乱の戦国時代に井上若狭守という人が、はげしい戦場でウグイスの鳴き声を楽しみながら戦ったという話もあります。徳川時代には將軍家に、ウグイス飼育の専任の係である「お鳥掛」なる役職もあったことが知られています。人間に親しまれる鳴き声も、その年最初に鳴き出しますがその年の最初に鳴くことを「初鳴き」と呼びます。松代町では四月二日ころから五月三日ころの間に初鳴きをするようです。筆者が桐山で過去二年間調べた結果は、昭和六一年が四月八日、六二年は四月三日となつています。今年はいつごろ初鳴きを聞けるか楽しみにし、木下利玄の歌でこの頃を終わります。

うぐひすは

鳴きすましおり

頂上の

笹原照りつ曇りつするも

今年もどうぞよろしくお願いします。



書き初め

年賀状は筆ペンやワープロですました人も、書き初めはやっぱり毛筆でという人が多いようです。書き初めを書くのは主に学童ですが、最近では趣味としての書道が盛んになり、書き初めをする人が増えていきます。

書き初めは、吉書、試筆、筆始めなどとも呼んで、正月の二日に、新しい筆や墨を使って、めでたい字句を書くのが一般的です。最近では、自分の人生観やモットーを書くことも多くなりました。

書き初めは、鎌倉時代から



ところで、一月二十六日は「文化財防火デー」です。この日は、昭和二十四年に法隆寺金堂の壁画が焼損した日にあたります。この日を中心に文化財の消防・防災設備などの点検整備などが行われます。わたしたちも文化財を拝観するときなどは、防火に注意したいものです。

年中儀礼のひとつとして行われていたようですが、寺小屋教育の普及とともに盛んになりました。また、江戸の文人たちの間でも行われていました。書き初めの作品は、左義長(主に一月十四日または十五日)の時に門松とともに焼き、その燃えながら高く上がると書が上手になるとされてい

すから、新年の占いの一種でもあったのです。

書き初めのほかに、昔は読み初めというものもありましたし、芸事では、弾き初め、謡い初めが行われています。江戸時代には買い初めに塩、はまぐり、なまこを買うという風習もありました。

※左義長……正月に行われる火祭の行事。お盆とともに、火祭によって荒ぶる精霊を追い払う行事。



島田助役^{さん} 退任^{される}

町助役の島田健司さん（写真）が、昭和六十三年十二月三十一日をもって退任されました。

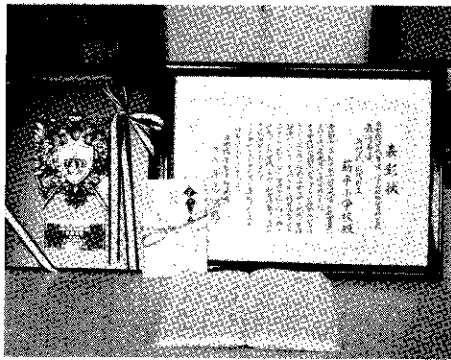
島田さんは、昭和二十八年に役場に就職されて以来、三十五年間にわたり行政マン一筋にご活躍され、在職中には産業課長、総務課長、町教育長、助役として町行政の要職を歴任するなど地方自治発展にご尽力されてきました。

あざびろ 蒔平の先生、 やりましたね!!

日本標準教育賞
最優秀賞受賞

蒔平小学校の柳沢校長先生はじめ先生方による「クラスメートは三頭の牛たち」（過疎地にたくましく生きる子ども）と題した教育実践論文が、第十二回日本標準教育賞小学校教師の部（集団研究の部）五〇七点の作品の中で最優秀賞受賞の栄誉に輝きました。（写真）

論文は、昭和六十二年度において新入学児童がゼロであった蒔平小で、新しい仲間として三頭の子牛を「入学」さ



せ、牛と子どもと先生が地区住民の温かな心の輪の中で得た記録を直接体験学習の実践として発表されました。

きびしい自然と社会環境の中で、子どもの「生きる力」と学習意欲の喚起を希って展開された地域総ぐるみの教育

“おれたち松代族” “池づんね古池の昔話”

映像作品コンクールで受賞

町ジュニアリーダーズクラブ（中、高校生リーダー育成講座受講生）のビデオ作品、“おれたち松代族”が県視聴覚ライブラリー主催の第二回映像作品コンクールにおいて、最優秀賞を受賞しました。

「見つけよう 地域を、生き方を、やさしさを」をテーマに、年間活動として、二泊三日の人里離れた地で自給自足の最低限の食糧の中で行われる「サバイバルキャンプ」、

活動の記録が「地域に根ざした教育」の个性的な実践として高く評価され、このたびの受賞となったものです。

なお、この実践記録は「クラスメートは子牛たち」日本教育新聞社と「さようなら！子牛のモグタン 牛たちの卒業式」（懶成社）として発刊され、町内書店で販売されています。

東京・世田谷で行われる雑居まつりで松代の素朴な特産物を選び、作成、調達し都会人に販売してきた活動記録等が一本のテープにまとめられ、撮影、挿入歌、ナレーション等全て自作のものです。

創造力と独自性に富んだ優れた作品と評価されてのこの度の受賞となりました。

受講生の子ども達が「自然の匂いのする松代が好き」と言っているのが印象的です。

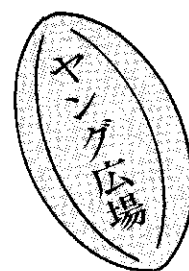


▶どもたちと牛の愛情物語が
一冊の本になりました



また、OHP（オーバーヘッドプロジェクター、文字図形投影器）部門では、高橋ハツさん（松代）はじめ八名による松代町中央婦人学級生が蒲野奴奈川小教頭先生指導のもとに作成した「池づんね古池の昔話」（下山に伝わる民話）が優秀賞を受賞しました。

県のコンクールで松代町の作品が二部門で受賞する快挙となったわけですね。



新春“雑感”

武田清子

雪が少なくおだやかな正月ですね。私はこの「広報まつだい」でまず目につくのが、「ヤング広場」の欄で、いつも楽しく読んでおりましたが、（自分が書く事など想像もしていなかったから）自分に順番がまわって来て参つてしま



いました。
私はこの町で生まれ高校卒業後、こんな雪の降る所とは思ひ、東京へ就職することに喜び勇んでゆきましたが、三年間働いて、Uターンして二年になろうとしている現在です。都会での生活は私が考えている程、良いものではありませんでした。
最初の一、二カ月間は悲惨なものでした。松代町に比べ都会は「空気・水・環境・自然」が違い、私は皮膚が弱いせいかアレルギー性でなかなか都会に合わず体調を崩し、

病院通いをしながらの会社勤めでした。又、通勤する時も電車で通っていたのですが、これも悲惨な事に毎日毎日、ギョウギウ詰めのラッシュに遭い私は人ゴミは苦手なもので、こればかりはどうしようもなく苦痛でした。
それに比べ松代町は静かで自然があり閑静な町だけに、私にとってこの町が一番合っているのではないかと思います。松代の自然の良さは季節でもわかるように、春には山菜取り、秋には紅葉、冬は雪が降るといふ毎年の繰り返し

ですが、私にとってはなくてはならない町です。
昨年を振り返ってみていろんな事がありました。温泉開発、チベット文化、ミニダム、越後まつだいの陣、国際結婚、その他いろいろな事業が始まり、松代町の飛躍の時代が来たような気がいたします。
今、松代町も人口流出が続いて過疎化となり淋しい感じがいたしますが、比越北線が開通し、スキー場も出来るとかでだんだんこの町も少しずつ良くなると思います。
私の三年間の都会生活経験からして、自然が多いこの町に住み、働ける事を大切に、誇りをもって頑張つて行こうと思います。

編集後記

「雪が少なくいいあんなばいだのお」

お茶飲み時のあいさつとなつたこの言葉。しかし、まだまだ油断はなりません。何しろ多い時は五メートル以上

にもなるんですから。
誰ですか？ たまには屋根に上がらないと体がナマツチやう」なんて強がり言っているのは。
そこで「お茶飲み」と「雪掘り」がもたらす効果について考えてみました。

「お茶飲み」①コミュニケーションが促進する。(この広報がいらないくらい町の隅々の小さな事まで知ることができる)②肥満と高血圧症が増える(塩っぱい漬け物を食べ、座りっぱなし)。「雪掘り」①電気料と酒代が節約(少量

の晩酌で効き、長く起きていられない)②顔がおっかなくなる(雪がもとで隣の人もケンカする)。
どちらにも一長一短があるようです。せめて北風予僧の目を覚まさせよう「平静」に過ごしましょう。

戸籍の窓口

(12月7日～1月5日受付)

幸せ多い人生を(結婚)

伊野清春・小界玲子さん

(儀明・前田)

松山邦夫・大村百合子さん

(犬伏・松之屋)

小界正行・佐藤みえ子さん

(儀明・三枚田)

げんきなよい子に(出生)

鈴木 彩さん 裕之・八重子さん

(三女・松代・利乃屋)

ご冥福を祈ります(死亡)

高橋 藤一さん 71歳

(室野・大坪)

関谷 正好さん 71歳

(松代・文世)

